

## 本日のテーマ : 平成 14 年度 製造基盤白書を読む

平成 14 年度版製造基盤白書が発行されました。副題は **日本製造業の復権に向けた戦略的取組** です。第 1 部が「我が国のものづくり基盤技術の現状と課題」のタイトルで、製造業の活動状況を時系列的に、業種別に比較、分析しています。また、第 2 部は「平成 14 年度においてもものづくり基盤技術の振興に関して講じた施策」が紹介されています。この中から何項目かを取り上げてみました。

### 第 1 部「我が国のものづくり基盤技術の現状と課題」

第 1 部の図表関係から、この 10 年の変化を数値的に確認できるポイントを取り上げ再編集したものです。

	1992 年	2002 年	単位
サービス業の 就業者数	3564	3884	万人
製造業の 就業者数	1569	1222	万人
	1991 年	2002 年	
製造業の 設備投資額	24.3	11.6	兆円
製造業の 設備年齢	9.3	12.0	年
	1991 年	2000 年	
海外生産比率 (輸送機械)	14	31.1	%
海外生産比率 (電気機械)	11	21.9	%

#### 1) 就業者数

製造業の就業者数がこの 10 年で 347 万人(22.1%)減少しているのに対し、サービス業のそれは 320 万人(9.0%)増加しています。この間のアメリカでの変動は製造業で約 140 万人減、サービス業で 1900 万人の増となっています。

日本でのサービス産業化に比べてアメリカのそれはかなり激しい状態と言えます。

#### 2) 設備投資

製造業の設備投資のピークは 1991 年の 24.3 兆円、これが近年ではほぼ半減となっています。これにともない、製造業の設備年齢が 12.0 年にまで高くなり、更新の必要性は高くなっているが、更新を先延ばししている姿が見えてきます。一方アメリカのそれは 91 年

が 7.3 年、02 年が 7.9 年と、適度な更新が進行し、製造業の競争力向上が裏付けされています。

#### 3) 海外生産比率

業種別の上位 2 つは、この 10 年変動がなく輸送機械が 1 位で、電気機械が 2 位です。この両業種とも海外生産比率は 10 年前のほぼ 2 倍となり、近年ややこの比率の増加率は低下の兆候が見られます。

### その他の気になる数値

#### 1) 製造業の付加価値額

国内製造業の付加価値額の対 GDP 比 20.8%、製造業の事業活動に伴う他産業のその増加分を加えたものの対 GDP 比 32.4%。製造業の影響は見かけ以上に大きいようです。

#### 2) 輸出の工業製品比率

輸出の工業製品比率は 93.8%、日本の輸出が約 50 兆円、工業製品出荷額が 286.7 兆円、その付加価値額が 103.3 兆円であることを考えると、日本製造業の輸出依存度は約 50%または、これに近い数字と言うことになってくるのでしょうか、製造業関係者はもっと海外の動きに注意を払う必要がありそうです。

### 白書本文は [経済産業省ホームページ](#)からどうぞ

「経済産業省の取り組み」欄の「白書・報告書」よりアクセスできます。



中上義春画像  
白浜エネルギーランド  
似顔絵ロボット作品  
(1990 年 9 月)

\*\*\*\*\*

(有)関西中小企業研究所

代表取締役 中上義春 (Nakaue Yoshiharu)

(中小企業診断士)

大阪市中央区南船場 2 丁目 2 番 14 号

TEL / FAX 06 - 6263 - 7057

E-mail : [bkai0518@rinku.zaq.ne.jp](mailto:bkai0518@rinku.zaq.ne.jp)

URL : <http://www.rinku.zaq.ne.jp/bkai0508/01.htm>

\*\*\*\*\*